

頌春



イラスト/古泉 祥央氏

八島から昇る朝日 (四代から望む)

2022年の出来事

- 1/11 上関未来通信39号(正月号)発行
- 7/28 町連協エネルギー講演会を開催(オンラインで山本隆三氏の講演と意見交換)
- 8/25 上関未来通信40号発行
- 10/17、27 原子力の日(のぼりを設置)
- 11/24、25 青壮協がJAIF地域ネットワーク見学会(福島)に参加
- 12/2 上関未来通信41号発行

豊かな町を原子力発電とともに

上関町まちづくり連絡協議会 ● 会報

上関未来通信

No.42
正月号
通算356号
発行 令和5年1月11日



上関町まちづくり連絡協議会
代表幹事 藤井 快宏

令和5年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

平素より「上関町まちづくり連絡協議会」の活動にご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、世界情勢の影響によるエネルギー価格の高騰や、物価高により生活の圧迫を実感した一年でした。新型コロナウイルス感染症の流行も続いており、上関町でも多くのイベントが中止されました。しかしながら、一部のイベントが再開されるなど明るい兆しもあります。いずれにしても、新型コロナウイルス感染症の1日も早い収束を願うばかりです。

皆様もご承知のとおり、昨年10月には柏原前町長が退職されたことに伴い町長選挙が行われ、西哲夫町長が就任されました。柏原前町長には、上関町民のため長きにわたりご尽力いただいたことに深く感謝申し上げます。また、西町長には、少子高齢化が進む上関町において、持続可能なまちづくりと、住民に寄り添った行政を担っていただくことを期待しています。

さて、原子力に目を向けると、昨年のGX実行会議で岸田総理が、足元のエネルギー危機克服の観点からも脱炭素エネルギーである原子力発電を活用する方針を表明されました。引き続きこうした国の動きを注視していくとともに、上関地点の一日も早い準備工事の再開を望んでいます。

当会では、本年も上関原子力発電所の立地を契機とした活力ある豊かな町づくりに向け、講演会や勉強会等の理解活動を行ってまいります。本年も、変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

最後に、本年が皆様にとりまして明るく輝かしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

令和五年一月吉日

上関海峡温泉 鳩子の湯



道の駅 上関海峡



生産者と消費者の絆を深めたい

「道の駅 上関海峡」は昨年12月にオープン8周年を迎えました。新年を迎え、体制強化を図りながら次のステップに踏み出すうとして道の駅で、高津駅長に意気込みや今後の取り組みなどをお聞きしました。

高津 ● 昨年は新規の来場者が多かった印象です。ウチの良さをアピールする機会が増えたということで、前向きに捉えています。上関町は海の町なので、海産物に関連するイベントを積極的にやってきました。栽培漁業センターとタイアップしたクルマエビのイベント（つかみ取りや特売）はとくに好評でしたね。今年もいろいろと楽しいイベントを企画したいと思っています。

これからは地元海産物をレストランで提供できる体制づくりなど、生産者と消費者の距離を縮める取り組みを行っていききたいと思えます。2023年もよろしくお願ひいたします。



大勢の人に癒しを提供

「上関海峡温泉 鳩子の湯」では、昨年8月から11月にかけて改修工事を行い、内外装ともに美しくリフレッシュされました。折にふれてイベントも行っています。リフレッシュオープン記念に続き、昨年12月には11周年を機に周年記念イベントも開催され、大勢の来客で賑わいました。



「JAIF地域ネットワーク見学会」参加レポート 現場を訪れる重要性を実感

11月24・25日、日本原子力産業協会主催の「地域ネットワーク見学会」として、福島第一原子力発電所（以下1F）視察や地元関係者との意見交換会などが行われました。今回は、これに参加した青壮年連絡協議会の副会長・守友誠氏にお話を伺いました。

見学会に参加して【守友誠】



「東日本大震災・原子力災害伝承館」前に立つ守友誠副会長

順調に進む除染作業

初日は1Fの視察です。そこへはバスで向かいましたが、1Fが立地する大熊町辺りに入ると、東日本大震災で壊れた多くの建物がそのまま残っており、被害の悲惨さを物語っていました。また、道路脇の駐車場には、当たり前のように線量計が設置してあり、その場所の放射線量が一目で確認できるといった印象的でした。

1Fの敷地内に入ると目に飛び込むのは膨大な数のタンクです。その数は1000基を超えるそうですが、この中に入る水は浄化設備（ALPS）の進化で、ほとんどの放射性物質が除去されており、除去しきれないトリチウムもしっかりと希釈して、国の安全基準や世界保健機関の飲料水水質ガイドラインで定められた数値を十分下回る事を確認したうえで、海洋放出する計画とのことでした。

海洋放出は地元の漁協も反対していませんが、その理由は安全性への不安ではなく風評被害を恐れているためです。風評被害は間違った認識に基づ



敷地内に並ぶ大量のタンクをモニターで確認

いています。やはり正しい知識を身につけることが大切だと改めて感じました。

1Fの敷地内の大部分は放射線量を気にする必要はなく、視察者は特別な服を着る事はありません。法面もコンクリートが吹き付けてあるなど、敷地内の除染も順調に進んでいるという印象を受けました。

1Fの視察後、見学会の参加者や地元の人との意見交換会がありました。近年のエネルギー価格高騰や、電力需給ひっ迫などの問題解決の一助になればとの認識から、地元の方は「被害が少なかった福島第一原子力発電所を動かしてほしい」と言っていました。また、上関の状況を説明すると、皆さんが応援してくれてとても心強かったです。

記憶に残すべき資料

2日目は1F周辺4町（双葉町、大熊町、富岡町、楡葉町）の職員の方との意見交換がありました。事故後の人口推移について説明を受けましたが、町外に避難した人の多くが戻っていないとのこと。やはり10年以上、別の

土地に住むと、そこが新しい生活拠点になるのでしょうか。災害に強い町づくりとともに、そこに立地する原子力発電所の高い安全性は最重要課題だと感じました。

最後に「東日本大震災・原子力災害伝承館」を見学しました。原子力にまつわる詳細な歴史年表が展示されており、とても勉強になりました。

また、東日本大震災での津波被害の展示は大変ショッキングでした。津波は、建造物はもちろん山や川、植物などの自然まで、無差別に破壊する脅威です。こうした災害の記録を後世に伝えていこうという展示内容は、胸に迫るものがありました。

今回の見学会に参加して感じたことは、実際に現場を訪れ、現地の人と話することの大切さでした。私たちはテレビや新聞などから、また最近ではネットから受け取る情報も多くなっています。しかし、現場でリアルな情報を得る事ができたことは最大の収穫でした。

● 謹んで新春のお慶び申し上げます。

● 上関海峡温泉「鳩子の湯」は昨年11月に改修工事が終了し、来場者も最盛期近くになっているそうです。また、道の駅「上関海峡」でも上関ならではの海産物を生かしたイベントを行い、新規の来場者が増えてきたと高津駅長が話されていました。● 上関には豊かな自然、新鮮な海産物や温浴施設などの観光資源がありますので、さらに多くの方に上関町に訪れていただきたいです。● 先日、青壮協の守友副会長の福島視察について伺いました。福島第一原子力発電所の現状について報道等では知り得ない情報も多く、実際に現地に行き、生の声を聞くことが大切だということを実感しました。● 最後になりましたが、今年も皆さんにとって良い年になるよう祈念しています。(K)

後記